

# 北海道：幌尻岳 2052m、トムラウシ山 2141m

齊藤 整紀

- 2017年8月16日（水）～20日（日）
- メンバー 村山隆（CL）・齊藤整紀
- 日程 16日 葛西（バス）4：00⇒羽田（スカイマーク）⇒新千歳空港⇒（レンタカー）⇒北電ゲート 13：30⇒18：00 幌尻山荘（避難小屋：泊）
- 17日 幌尻山荘 5：10⇒中間点 7：30⇒幌尻岳 11：00～30⇒中間点 15：00⇒18：30 幌尻山荘（泊）
- 18日 幌尻山荘 5：10⇒9：30 北電ゲート（車）⇒18：00 トムラウシ温泉・東大雪荘（泊）
- 19日 東大雪荘 4：00（車）⇒最短コース登山口 4：30⇒カムイ天井 5：50⇒コマドリ沢分岐 8：00⇒前トム平 9：00⇒トムラウシ山 11：20～50⇒トムラウシ公園 13：30⇒前トム平 14：00⇒コマドリ沢分岐 15：00⇒カムイ天井 16：35⇒最短コース登山口 17：00（車）⇒17：30 東大雪荘（泊）
- 20日 東大雪荘（車）8：30⇒支笏湖湖畔（昼食）13：50～14：30⇒15：30 レンタカー返却（送迎車）⇒新千歳空港（反省会）16：20～17：00（パニアエア）17：50⇒20：20 成田空港（バス）19：15⇒20：10 葛西

## 《はじめに》

私の北海道唯一残る百名山・幌尻岳と、友人が今後、一人で挑むに当り、二人で行っておきたいトムラウシ山をセットで友人が企画してくれた。

### 8月17日（木）幌尻岳 曇りのち雨

幌尻山荘 5：10⇒中間点 7：30⇒幌尻岳 11：00～30⇒中間点 15：00⇒18：30 幌尻山荘（泊）

私が札幌在住の頃、幌尻岳といえば振内ルートが一般的で、渡渉が多いため雨天時は登れないリスクがあった。今回はそのリスク回避のため 18kmの林道歩きのある新冠ルートを選んだ。

昨夜、避難小屋着が 18 時で、居場所確保が危ぶまれたが、泊り客は 30 人弱のところ、40 人定員に、テント 2 張で余裕があった。この日、我々は連泊であり、シュラフ、不要食料等を置いて出発。竹の葉裏にマダニがいるとの情報に、雨具を上下着用した。確かに竹藪を切り開いて付けたような径が多くダニも居そう。前半は概ね川沿いに径が切られており、いきなり崩落による高巻の洗礼。滑る斜面にお助けロープが数十本も貼られたトラバース。以後、1ヶ所だけ渡渉があった。樹林帯の中、雨に濡れたら厄介な滑り易い土の斜面が多く、竹の葉に触れずには通れない径が続き、だんだんマダニも気にしていられなくなった。

出発後、2 時間程で、心配していた雨が落ちてきた。なんとか「中間点」と判読できる標識に至った頃は本格的な雨になった。更に 1 時間程上り一辺倒の径を凌ぐと、高木が消えて、明るくなり、山が変わってきた。だんだん傾斜が厳しくなり、お花畑をジグザグに縦断する径に至る。



雨中ながら見事なお花畑に見惚れていると、頭上から話し声が聞こえる。「大岩」の岩陰で休息を取る人達だ！程なく、肩状の尾根に上り、振内ルートとの合流点に至り、10 分程で山頂に到着。雨と蒸れで、メガネも曇り、視界不良！

とりあえず、雨の中、記念写真を撮り、辺りを眺めるが、戸鶯別岳はおろか、セツ沼カールを見下ろす「肩」さえ望めない。キタキツネの親子が我々の様子を伺ってから叢へ消えた。



また見たこともない様な大きな鳥が羽を休めている。山の主か！山頂は短時間で撤収。

コンディションの厳しい中、疲れ切った体での下山は辛い。安全第一に慎重に足を運ぶ。上り6時間弱に対し、下山路は水を含み、一步一步丁寧に下りたため、7時間も要した。避難小屋はツアー2組が加わり、雨で天泊も出来ず、収容ギリギリで、濡れ物干しに苦労した。シュパッツや靴の泥は川に下りて洗った。それでも自炊の水は沢水で、沸かせば使えるため助かる。

我々の隣に、遅く、トムラウシを縦走して来たという両親と小学6年生が到着。父親は名だたる稜線や沢にも精通し、奥様と二人、息子を大事にしている。幼稚園の頃から始めて、百名山99座目とか。食事や身の回りのこと一切を両親がセットする姿に、「百名山最年少」挑戦の親御さんの姿が重なり、複雑な思い。

8月18日(金) ポロシリ山荘～東大雪荘 晴れ

今日は、トムラウシの登山口まで、長い移動のため、5時過ぎに出発。18kmの林道は、上り下りを繰り返すため、復路は往路の4時間半より10分短縮に留まる。途中、荷物を下して通らなければならないゲートを2つ潜った。北電ゲートの東側には田中陽希登頂記念碑があり、新冠町のこのルートに掛ける意気込みが感じられる。車はダム沿いに暫く走った後、舗道に出る。途中、サラブレッド銀座の「優駿記念館」に寄って、オグリキャップの像を拝し、立派な墓に詣でた。

次に新冠町レコード館にある観光協会に寄って「幌尻岳登頂証明書」をお願いした。友人が事前にネットで申し込んでおいてくれたものだ。証明書には「新冠ルート」と併記してあり、町の観

光の目玉である幌尻岳とサラブレッドの写真の入ったバッジも戴いた。千円である。なお敷地内にはハイセイコー像と歌碑が建っている。

8月19日(土) トムラウシ山 晴れ時々曇り  
東大雪荘 4:00(車) ⇒ 最短コース登山口 4:30 → カムイ天井 5:50 → コマドリ沢分岐 8:00 → 前トム平 9:00 → トムラウシ山 11:20~50 → トムラウシ公園 13:30 → 前トム平 14:00 → コマドリ沢分岐 15:00 → カムイ天井 16:35 → 最短コース登山口 17:00(車) ⇒ 17:30 東大雪荘(泊)

3度目のトムラウシ山は、最短のトムラウシ温泉ルートである。昨夜は国民宿舎の温泉に入り、ゆったりベッドで眠り、爽快である。青空の下、最短コース登山口へ。大きな熊の糞がある。この辺も熊出没エリアである。車を降りて20分歩くと、以前歩いた径に出たが、草が生えて、あまり歩く人はない。カムイ天井からはカムイサンケナイ川に下りる径は閉鎖され、右岸の稜線に径が変わった。この新道は、頗る展望が良い。東にニペソツ山、西に夕張岳や十勝岳連峰も青空に映える。



目指すトムラウシの山頂部も窺う。しかし径は、木道の配備が少なく、泥濘、ドロコ状態。

コマドリ沢出合から、前トム平までは明るい斜面で楽しい上りが続く。前トム平に着くと、トムラウシの大きさが実感出来る。次の尾根を越えると、トムラウシ公園の絶景と山頂の前衛が聳える。



トムラウシ公園は和風庭園の様な見事な天然創造物である。平成8年、9年に来た時は、もう少し時期が早く、花の盛期であったが、公園の池塘には雪が残っていたように記憶しており、また花の量も遥かに多かった。山頂に向けて西側から回り込むように上って行く。



いつしか北側は雲で覆われ展望が無い。山頂に着いても同様で、旭岳方面はおろか、化雲岳周辺の「神遊びの庭」や日本庭園、ロックガーデンも望めない。辛くも北沼から南沼周辺が雲の切れ間から望むのが精一杯。またナキウサギも姿は無く、鳴き声さえ熊鈴にかき消されているのは残念である。トムラウシ公園へ戻る下り斜面で、コマクサが残っていた。



初めて来た時に、ビッシリのコマクサの中から、紅コマクサを発見したお花畑である。



下山時も、コマドリ沢分岐～カムイ天井の新道の泥濘に悩まされた。何度も転倒の憂き目に遭いながら、何とかカムイ天井に戻り、駐車場まで辿りついた。

今回はトムラウシ南半分の山旅。花の盛期が過ぎての山行で、一部天候に恵まれずに、山頂からの大パノラマが得られず、ナキウサギの声さえ聞けないという条件の悪さはあったが、やはりスケールの大きな山。厳しいアルバイトを伴ったが、素晴らしい山には違いない。

思えば、初めて来たのは21年前の8月初め、今回のルート。更に次の年の7月下旬、銀泉台からテントを背負っての縦走であったが、トムラウシ周辺は勿論、途中、コマクサの咲き誇るコマクサ平や登山道周辺に咲くコマクサを除けながら歩いた高根原や、忠別岳山頂の見渡す限りの花園は忘れられない。まだ自然が健在で、ロックガーデンはナキウサギの「キーキー」という鳴き声は止まなかった。更に化雲岳周辺の「神遊びの庭」のお花畑は、まさに別天地であったが、今は木道で保護されているそうである。

とにかく、トムラウシは、この3度目の山行でも、私の最もお気に入りの名山である。

#### 8月20日(日) 東大雪荘～帰宅 晴れ

夕方の飛行機の時間に合わせ、東大雪荘で、泥靴やシュパッツを水洗いしてから、ゆっくり出発。途中、新得方面へ向かう道から、車を運転した。地平線の彼方まで続いているような道路での運転は久しぶりに味わった。北海道は広い！

少し時間の余裕があったため、支笏湖に寄った。ここにはプライベートでも何度も来ているし、銀行員時代、札幌支店に来る本部の連中が、飛行機まで少し時間がある場合、よく、ここに案内したものである。当時と比べ、観光客が増え、商業施設がめっきり増え、車も多くなった。

友人のお蔭で、2度と来ることがなかろうと思っていた北海道の山に来ることが出来、かつ当地の百名山未踏峰に登頂を果たしたことは嬉しい。友人に感謝したい。《了》